

特別活動

1 指導計画の作成と内容の取扱い

各学校においては、特別活動の全体計画に基づき、年間を通じた「ホームルーム活動」、「生徒会活動」、「学校行事」ごとの目標、その内容や方法、指導の流れ、時間の配当、評価などを示した「各活動・学校行事の年間指導計画」を作成する。

各活動・学校行事の年間指導計画の作成に当たっては、学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達の段階及び特性等を考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにする必要がある。また、各教科・科目や総合的な学習の時間などの指導との関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫する必要がある。

なお、次の(1)～(3)に示した「ホームルーム活動」、「生徒会活動」、「学校行事」の年間指導計画例には、特別活動の各活動及び学校行事を通して何を育てるのかを明確にするため、次の五つの観点のうち、特に指導の重点とする観点を「◎」、重点とする観点を「○」で示した。

- A 望ましい集団活動の展開と望ましい集団の育成
- B 個人的な資質の育成
- C 社会的な資質の育成
- D 自主的、実践的な態度の育成
- E 人間としての在り方生き方についての自覚と自己を生かす能力の育成

(1) ホームルーム活動

ア 授業時数等

ホームルーム活動においては、人間としての在り方生き方に関する教育において中核的な役割を果たすことが期待されており、年間35単位時間を最低限確保するとともに、ホームルーム活動の充実を図るため、さらに必要に応じて年間35時間を超えて授業時数を適切に配当することが必要である。

また、学校において定めたホームルーム活動の授業は、毎週実施し、年間35単位時間以上行うわけであるが、学校や生徒の実態に対する配慮、学校生活への適応やガイダンスの充実、人間としての在り方生き方に関する指導の形態や方法の工夫の観点から、その方が教育効果を高めることができる場合には、年間の授業時数を確保しながら、適切な計画の下に授業の1単位時間を弾力的に運用することができる。

イ 年間指導計画の作成

ホームルーム活動は、入学から卒業までを見通して生徒の発達の段階及び特性等を踏まえ、系統立てて指導するとともに、年間を通して計画的に指導する必要があることから、まず、学校として入学から卒業までを見通した各学年ごとの年間指導計画を作成し、それを基にしてホームルームの実態に応じたホームルームごとの年間指導計画や1単位時間の指導計画を作成することが必要である。

特に、高等学校入学当初においては、個々の生徒が、中学校における学校生活との違いを乗り越え、新しい学校生活に適応できるよう十分に配慮することが必要である。

ウ ホームルーム活動の年間指導計画例（1学年）

【ホームルーム活動の目標】 望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

学期	月	活動内容	指導方法	育てたい力	予定 時数	教材等	項目	五つの観点				
								A	B	C	D	E
前期	4	自己紹介	自己紹介カードに基づいた他己紹介	望ましい人間関係を築こうとする態度	1	自己紹介カード	(1)ア	◎			○	○
		オリエンテーション	資料を活用しHR担任により指導	様々な集団生活への適応	1	年間行事予定	(1)ウ	◎				○
		クラスメイトについて	学校祭を例にしたHR討論	集団の一員としての自主的・実践的な態度	1	昨年度の学校祭資料	(1)イ (2)イ	○	○		◎	○
		生徒総会について	HRによる生徒会行事の説明	生徒会行事の理解とよりよい学校生活づくりに参画する態度	1	生徒総会資料	(1)ウ	◎	○	○		
	5	校則の意義	校則の意義についてHR討論	基本的な生活習慣の確立	1	生徒手帳	(2)ウ	◎		○		
		2年次科目の選択	資料を活用しHR担任により指導	進路希望に基づき適切に選択する力	1	シラバス 進路希望調査票	(3)ウ		○			◎

※ 「項目」は、次のとおり学習指導要領に示されているホームルーム活動の内容である。

(1) ホームルームや学校の生活づくり
 ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決
 イ ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動
 ウ 学校における多様な集団の生活の向上

(2) 適応と成長及び健康安全
 ア 青年期の悩みや課題とその解決
 イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
 ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任
 エ 男女相互の理解と協力
 オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立
 カ ボランティア活動の意義の理解と参画
 キ 国際理解と国際交流
 ク 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立
 ケ 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立

(3) 学業と進路
 ア 学ぶことと働くことの意義の理解
 イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用
 ウ 教科・科目の適切な選択
 エ 進路適性の理解と進路情報の活用
 オ 望ましい勤労観・職業観の確立
 カ 主体的な進路の選択決定と将来設計

※ 五つの観点 ◎～特に指導の重点とする観点、○～重点とする観点

(2) 生徒会活動

ア 授業時数等

生徒会活動においては、生徒の異年齢集団による自発的、自治的な活動を一層活発に行えるようにするため、ホームルーム活動との関連も図りつつ、活動に必要な場や機会を年間を通じて計画的に確保するよう留意し、学校全体、又は学年などを単位とした適切な指導計画と授業時数を充てることが大切である。

イ 年間指導計画の作成

生徒会活動の指導計画の作成に当たっては、各組織別の指導の方針を明確にするとともに、生徒が作成する組織ごとの活動計画を十分配慮に入れて、全教職員の共通理解と協力を基盤に指導計画を作成することが大切である。

また、必要に応じて、他校との相互交流を図ったり、地域社会との連携を深めたりするなど、校外での活動への広がりを図る指導計画の作成にも留意することが望まれる。

ウ 生徒会活動の年間指導計画例

【生徒会活動の目標】 望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

学期	月	活動内容	活動場所	予定時数	指導上の留意点	項目	五つの観点				
							A	B	C	D	E
前期	4	対面式	体育館	1	新入生に対し生徒会活動への関心や意識を高めるように工夫する	(1), (2)	◎			○	
		部局同好会紹介	体育館	2	校内放送や掲示板の活用などの広報活動を併せて行う	(3)	○			◎	
		図書貸出開始	図書館	—	図書館の利用マナー指導などホームルーム活動との関連を図る	(1), (3)		◎	○	○	
		朝読書開始	HR教室	—	教科との関連を図り生徒の自主的、自発的な活動となるようにする	(3)		◎	○	○	○
	5	地区大会壮行会	体育館	1	連帯感を養い活動意欲を高めることができるよう生徒自ら立案させる	(3)	○			◎	
		生徒総会	体育館	1	一人一人の生徒に生徒会組織の一員としての自覚を持たせる	(1)	◎	○	○		
学校祭原案作成		HR教室	—	話合いの意義や内容、方法、手順などを理解させる	(1)	○			◎		

※ 「項目」は、次のとおり学習指導要領に示されている生徒会活動の内容である。

(1) 生徒会の計画や運営	(2) 異年齢集団による交流	(3) 生徒の諸活動についての連絡調整
(4) 学校行事への協力	(5) ボランティア活動などの社会参画	

※ 五つの観点 ◎～特に指導の重点とする観点、○～重点とする観点

(3) 学校行事

ア 授業時数等

学校行事は、体験的な活動を通して、全校若しくは学年又はそれらに準ずる比較的大きな集団の単位による実践的な活動であることから、各教科・科目等との関連も図りつつ、各学校が創意工夫を発揮して適切な授業時数を充てることが必要である。

イ 年間指導計画の作成

学校行事の指導計画には、年間の学校行事全体にわたる年間指導計画と個々の行事についてのより具体的な個別の行事指導計画がある。

学校行事の実施に当たっては、学校の全教職員が行事の目標や指導の重点などを共通理解し、一体となって指導に当たらなくてはならないことから、全教職員が関わって入学から卒業までを見通した適切な年間指導計画を作成し、学校全体の協力的な指導体制を確立して、組織的に指導に当たる必要がある。

ウ 学校行事の年間指導計画例

【学校行事の目標】 望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

学期	月	行事名	予定時数	対象学年	目標	他の教育活動との関連	項目	五つの観点				
								A	B	C	D	E
前期	4	始業式	1	2・3	新しい生活への希望や意欲を持たせる	ホームルームの十分な事前指導	(1)	◎		○		
		入学式	2	1	集団の場における規律、気品ある態度を育てる	ホームルームの十分な事前指導	(1)	◎		○		
		健康診断	2	全	健康の保持増進などについての理解を図る	教科・科目(保健)	(3)		○		○	◎
		宿泊研修	18	1	自主的に集団の規律や秩序を守る態度を育てる	ホームルームの十分な事前指導	(4)	◎			○	
	5	避難訓練	2	全	災害時に自他の安全を確保することのできる能力を養う	ホームルームの十分な事前指導	(3)		○	◎		○
		地域ボランティア	3	全	社会に奉仕する態度を身に付けさせる	生徒会活動	(5)			○	◎	○

※ 「項目」は、次のとおり学習指導要領に示されている内容である。

(1) 儀式的行事	(2) 文化的行事	(3) 健康安全・体育的行事
(4) 旅行・集団宿泊的行事	(5) 勤労生産・奉仕的行事	

※ 五つの観点 ◎～特に指導の重点とする観点、○～重点とする観点

2 言語活動を充実する指導の実践例

特別活動においては、学習指導要領の内容の取扱いについての配慮事項において、「体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫すること」と示されている。

次に示したホームルーム活動の展開例では、社会福祉施設訪問の事前指導として、そのねらいや意義を生徒に十分理解させるとともに、入所者との有意義なコミュニケーションの在り方について、生徒が共に考えたり話し合ったりするなどの活動を通じて、言語に関する能力を高めることができるよう、グループ・ディスカッションを取り入れた。

○ ホームルーム活動の展開例

活動	社会福祉施設訪問の事前指導として、高齢者と関わる際のコミュニケーション能力を高めるための体験活動	
本時の目標	高齢者と触れ合うことの大切さとそのコミュニケーションの方法について、生徒自らが考え、行動する力を身に付けさせる。	
本時の活動内容	ディスカッション (高齢者と有意義な時間を過ごすためには、何が必要か)	
展開	○日時 平成〇〇年11月〇〇日(水) 6校時 ○場所 3学年各ホームルーム教室 ○対象生徒 3学年全員(各HRごとに実施) ○テーマ 「異世代交流～社会福祉施設訪問について」	
	時間	活動内容
	導入 10分	1 高齢社会とは？ 2 高校周辺にある社会福祉施設は？
	展開 35分	1 施設訪問についての説明 2 グループ・ディスカッション (あらかじめ決めておいた5人×8グループで実施) 「施設訪問で、どのように入所者とコミュニケーションをとれば有意義な時間を過ごせるか。」 3 意見発表・全体討論
まとめ 5分	○ 施設訪問の目的を再確認	現在及び将来、自分たちは高齢者とどのように関わっていかなければならないのかを考えさせること

言語活動の展開

【グループ・ディスカッションの様子】
KJ法を活用して、各自の意見を付箋に記入し、模造紙に貼って意見を整理している。

最初に挨拶して、学校とHRの紹介だね

学校紹介

HR紹介

映画は私たちじゃなくてもできるんじゃない？

映画上映

演劇部のAさんと美術部のBさんで作れそうだね

紙芝居

カラオケ

カラオケは、近所迷惑になりそうだよ！

町の歴史クイズなら、喜びそうだね！

クイズ

施設に、じゃんけんの強い人がいるみたいだよ

じゃんけん大会

【意見発表・全体討論の結果】
各グループからの意見発表をもとに全体で討論した結果、次のとおりとなった。

- 1 挨拶・学校、HR紹介 (10分)
- 2 クイズ (15分)
- 3 紙芝居 (20分)
- 4 じゃんけん大会 (15分)
- 5 合唱 (5分)
- 6 挨拶・お礼 (5分)

次の別グループからの案は、今回採用とならなかったが、次回の採用となった。

- 1 挨拶・HR紹介 (10分)
- 2 グループごとの交流 (55分)
- 3 挨拶・お礼 (5分)